

日野市まちづくりマスタープラン表紙案

【デザイン上の前提条件】

- ・ 前回のマスタープランと似すぎたデザインとしないこと。 区別がつくこと（背表紙や表表紙含む）
- ・ 今回改訂計画の改定方針や内容に沿ったものであること
- ・ 20 年先を見越したものであること（写真・イラスト等は流行り廃りがある）
- ・ 他市のものと比較して日野市の特徴が表現できているものであること
- ・ 水やみどりのイメージである青や緑を基調とすること

■ 案①(別添資料参照)

【継承と変化】

前の日野市まちづくりマスタープランは策定当時多くの市民参画によって生まれた。言葉一つにもいくつもの想いが込められており、今回の改訂にあたっては、その想いを継承しつつ社会情勢の大きく変化した内容について重点的に改訂した。

【主なキーワード】 人々の記憶の継承、成熟した都市、6つの改訂方針、多様性、次の20年

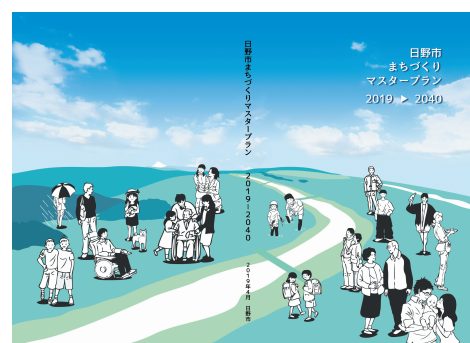


■ 案②(別添資料参照)

【暮らしが感じられる都市計画】

日野市まちづくりマスタープランは生活の視点を含む、都市基盤と合わせた生活基盤の醸成を充実させている点が、他自治体にはない大きな特徴となっている。人々がそこに暮らす選択したことを尊重し、多様な暮らしを受け入れ、暮らしの価値を高めることのできる日野を目標としている。

【主なキーワード】 生活者視点、暮らし、人、多様性、生活基盤、地域資源の利活用、つながり

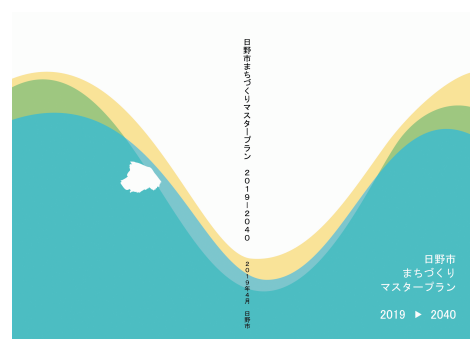


■ 案③(別添資料参照)

【共創のまちづくり】

日野市まちづくりマスタープランに描いたイメージを実現するには共創のまちづくりの実現が必要である。市民、事業者、行政が共に地域課題と解決策について共有し、まちを創る。

【主なキーワード】 共創、調和、様々な主体の参加、3つの基本方針、3つの波、地域資源の利活用



◆事例 都市計画マスタープラン

表紙案まとめ別紙

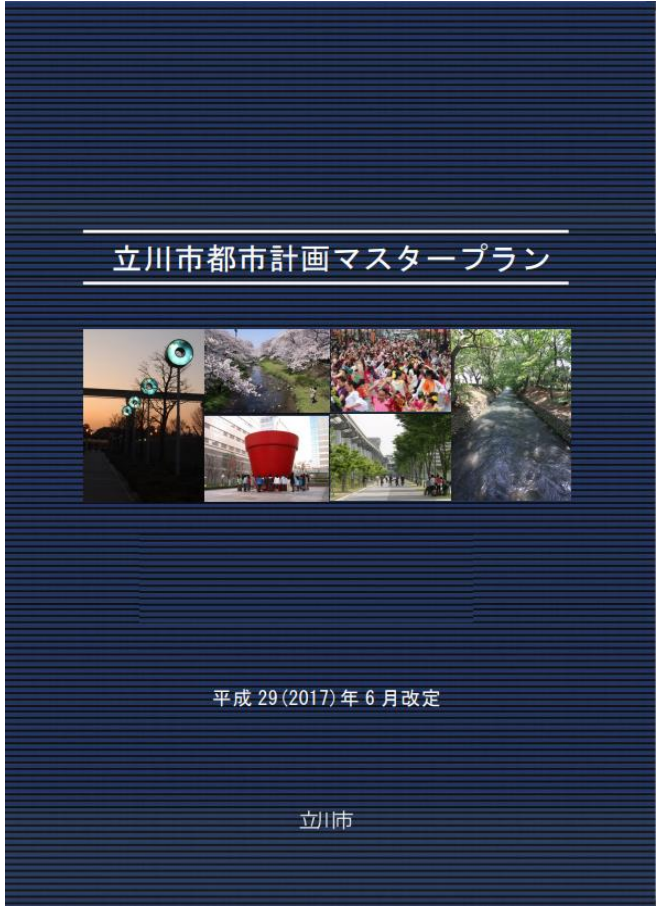
(1) 港区 (2017年3月)



(2) 八王子市 (2015年3月)



(3) 立川市 (2017年6月)



(4) 多摩市 (2013年6月)



(5) 国立市 (2018年6月)



日野市 (2003年10月) ・背表紙裏表紙込

